

美術部へようこそ! ▶ 埼玉県朝霞市立朝霞第五中学校

地元の特徴を生かした作品づくりに取り組み、地域との交流を大切にしている美術部取材しました。

写真/川原崎宣喜(右上写真は朝霞第五中学校提供)

国際的「壁画アート」に参加

縦1.5m×横3.6mのキャンバスに広がる青い空、ドーム状の屋根をもつモスク、ラクダ——。朝霞第五中学校の美術部員が描くのは、ウズベキスタンの風景だ。大きなビニール製シートに、絵筆を走らせる。

この取り組みは、「アートマイル国際協働学習プロジェクト」の一環。同プロジェクトは、一般社団法人「ジャパンアートマイル」が2006年より主催し、「壁画アート」制作を通じて、子どもに平和や環境について考えてもらうことを目的としている。今年は東京五輪開催を受け、各参加国をイメージした「壁画アート」を各地の学校が制作している。

同部では、インターネットでウズベキスタンについて調べた後、一人1枚ずつ、小さな紙に下絵を制作。その後、下絵の要素を組み合わせて構図を決め、ビニール製シートにチョークで下書きをしてから、専用の絵の具で着色していった。

2年生で部長の村山彩乃さんは「複雑なモスクの文様を表現するのが大変でした。初めて使う画材だったけど、意外と塗りやすかったです」と笑顔で話した。

個人も共同も全力で

2020年1月時点の部員は、1年生12人、2年生17人の計29人。校内の部活動でも上位の部員数で、なかなかの大所帯だが、部員は学年の枠



を超えて仲がいい。美術室では、4人1組の班ごとに机が並んでおり、その班は学年混合で編成されている。学期ごとに席替えも行う。

また、同部では年2回、個人の作品をコンクールなどに出品しているが、部全体の共同制作にも力を入れている。合唱コンクールや地域の祭りの看板づくりも、活動の一つだ。昨年の「3年生を送る会」では白黒のアニメーションを制作し、全校生徒の前で披露した。

自主性を重んじる活動

近隣地域との交流も活発だ。同部は毎秋、埼玉県こども動物自然公園

で開かれる「アートフェスタ」に参加している。この催しは、アートを通じた公園活性化を目的に、近隣の中高生美術部員が作品を展示するというもの。2019年には、各校がオリジナル絵馬をつくったり、合同でワークショップを行ったりした。

「活動を長続きさせるには、一人一人が主体性をもつことが大切」と話すのは、顧問の飯田成子先生。「壁画アート」への参加も、「3年生を送る会」のアニメーション制作も、部員たちが自ら「やりたい」と声をあげ、先生は見守るだけだったという。自主性を重んじる姿勢が、自由な創作につながっている。



左/29人の大所帯だが、部員は学年の枠を超えて仲よし。メリハリをつけて、活動に取り組んでいる。右上/合唱コンクールなどの校内行事の看板をつくるのも、活動の一つ。下/「アートマイル国際協働学習プロジェクト」の一環で制作している壁画アート。ウズベキスタンの美しい風景が描かれている。

教室を飛びだして

みんなの参観日(岡山県立美術館)

美術の授業における学びをさまざまな人に感じてもらうと、岡山県立美術館で始まった「みんなの参観日」をご紹介します。



広い世代が集まる美術館で、小中学校の図工・美術の授業を体感して

もらう企画展「みんなの参観日」が、岡山県立美術館で始動した。

各地で開かれている児童生徒の美術作品展とは、一味異なる。単に作品だけを展示するのではなく、子どもたちが授業で使ったワークシートなども一緒に並べることで、ありのままの制作過程を見せたい、子どもの豊かな発想や個性を感じてもらうことを目的としているのだ。

第1回は、1月12日～19日(前期)、2月23日～3月1日(後期)に開かれ、県内の小学校4校と中学校6校が参加。会場では、地域の和菓子店と連携して紙粘土で和菓子をつくる授業や、自分の魅力をあらわす名刺づくりの授業などの様子が、実際の作品

やワークシート、パネルの展示を通して紹介された。

展示では、「上手」な作品だけを選んで並べるのではなく、クラス全員の作品を紹介しているのが特徴。同美術館主任学芸員の岡本裕子さんは、「あくまで『美術による教育展』なので、すべての子どもが感じた学びや発見、先生が題材に込めたねらいや仕掛けなどを感じてほしい」と力を込める。

1月19日には、粘土で和菓子をつくるワークショップも開かれ、地元の中学生をはじめ、未就学児から一般まで幅広い世代が参加した。

今後も年1回のペースで継続し、将来的には未就学児や特別支援学校、高等学校にも対象を広げていきたいという。多様な美術の授業を紹介していくつもりだ。



粘土で和菓子をつくる授業を、ワークショップで体験する参加者たち。

放課後

第17回

ART